

わか草



新年のご挨拶

第61号 令和4年1月1日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂3-3-25

東京都立東部療育センター
院長 岩崎 裕治



新年の挨拶式にて
(2022年1月4日)

二〇二二年、新年あけましておめでとうございます。早いもので令和も四年目となりました。昨年は明けても暮れてもコロナに翻弄された一年だったように思います。そんな中、無事に新年を迎えられたことに喜びと感謝の念を抱きつつ、まだまだ気を許してはい

けないと再度気を引き締めております。しかし、最初の感染が確認されてから約二年が経過し、人類とウイルスとの闘いにもだいぶ変化がでてきました。新型コロナウイルスに対するワクチンの開発と接種により感染者数がだいぶ減少しました。また、ウイルスに対する経口薬などの開発も進んでいます。感染防御をしながら様々な活動が行われるようになってきています。ただ、またこの原稿を書いている間にも新たな変異株の出現・拡大がみられています。もうしばらくは、このウイルスとの闘いは続いていきそうです。

新型コロナウイルスは呼吸器系に書及ぼすことが多く、特に、その呼吸器系に課題を持つことが多い重症心身障害児(者)にとってその感染は重大な事態を招くことも予想されます。我々の使命としましては、まず一義的にはその感染を防ぎ、その上で当センター事業を継続し、活動(代替的なものも含め)などを進めることが重要と考えております。当センターでは、感染拡大が広がる中、まずは院内にウイルスを持ち込まないことを念頭に対策を立ててきました。平均して月に二回の感染予防対策委員会、それに先立って行われるインフェクションコントロールチーム(ICI)での検討をベースにして、院内の感染対策を検討してきました。職員は一日二回の体温計測実施と週一回のPCR検査を受けています。ワクチンの接種も色々と制約が多いものでしたが、皆の協力のもと問題なく行えました。入所や通所での療育活動については、今までは同じように外出することができないなどの制約があ

る中、その中でも四季の喜び、暮らしの楽しみなどを感じていただけよう、院内で体験していただける季節行事や活動を工夫してすすめてきました。(現在感染が少し落ち着いているため、院外への活動も他者との接触を避けることを原則にして少しずつ検討しております。)また、テイクアウト食の提供、リモート面会など、新たな試みも行ってきました。今後も同様に感染防御に努めながら、生活の質も維持していけるように工夫していければと思います。

さて、我々のセンターは開設十七年目に入っています。初代院長である有馬正高名誉院長が、開設準備室の段階から、地域の方々、東京都、当センタースタッフなどと共に、多くの思いをこめて十年かけて築いてこられた当センターを、前院長(加我牧子・現名誉院長)がさらに発展させてまいりました。私も当センター開設時より副院長として運営に携わることができましたが、今後ともこれまでの前任者の思いを引き継いでまいります。

先日当センター運営協議会が開催されました。この運営協議会は、センターの運営にご協力・ご支援いただいている東京都医師会、江東区医師会、東京都歯科医師会、東京都薬剤師会、大学病院・中核病院の方々、各区の障害福祉部長、児童相談所長、保健所長、特別支援学校長、東京都福祉保健局の皆様、当センターの活動内容や実績をご報告し、今後の運営につきご意見をいただく場です。今回初めてWebを利用したりリモート会議という形で実施しました。当日にはセンターで取り組

江東区若洲海浜公園から
見た2022年初日の出
(撮影：益山副院長)

今年度はどんな年になるのでしょうか。新型コロナウイルス感染が鎮静化しても、以前の生活と全く同様の生活を取り戻すことはできないかもしれませぬ。新型コロナウイルスへの対策を継続しながらも生活拡大への対応につき皆で知恵を出し合って検討していければと思います。引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

クリスマス会

センターで行われたクリスマス会です。



通所&乳幼児通所

今年はプリンセスの
ドレスケーキ(栄養科)

今年度のクリスマス会も感染対策を取りながらの実施となりました。「笑顔で過ごせるクリスマス会にしよう」を目標に病棟は十二月十六日(二階西、三階西)、十七日(二階南、三階南)通所は十三日(十七日まで)乳幼児は二十一日(二十四日)と行いました。病棟は感染対策として、ディールームでの密を避けるため、二部制にして利用者の人数を半々に分けて行いました。内容は音楽演奏、車椅子ダンスや職員のマジックショー、アトラクションを組み入れた点灯式、スライドショー、サンタクロースからのプレゼント、など今年度は利用者も一緒に参加する内容が多く皆さん楽しんでいました。

通所は日替わりでアトラクションボランティア、利用者による演奏、ダンス、紅白歌合戦など行いました。乳幼児はゲームやサンタクロースの物語、プレゼント等で親子共楽しい時間を過ごされました。

まだ社会全体が落ち着かない日々が続きますが、ひと時でも笑顔で過ごせる時間が出来てよかったですと感じています。(療育部 谷家)

病棟遠足① 水再生センター散策

外出を楽しもう！という目標を立て、感染対策を行いつつ、探索していったところ、お隣の水再生センターは貸し切り利用が可能というお話をいただき、九月(十一月)にかけてお願いをしました。九月に出かけたときはまだ暑い

十一月になると、寒さが募り、枯れ葉のじゅうたんが印象的でした。センター外に出かけるのは約二年ぶりであったので、利用者の皆さんも陽射しや風を感じながらの散歩を楽しんでいました。(療育部 宮田)

病棟遠足② バストライプ

今年度は東京オリンピックが開催されました。オリピック期間中は交通渋滞緩和のためバスによる外出を控えました。例年は五月から始まるバスハイイクが九月から始めなければならず、寒くなる月を避け九・十・十一月で実施することになりました。さらに新型コロナウイルス予防対策も加わりました。このような状況でも外出することを目標に検討を重ねて、バスでドライブする計画を立てました。

東京オリンピックはテレビで観戦しましたが数々のドラマが生まれました。会場を覗きまされたバスは水泳が行われた東京アクアテックセンターを目指します。病棟職員、さらにはバス運転手さんの解説つきです。バレーボールや車椅子バスケットボールの有明アリーナ、有明テニスの森、自転車競技・スケートボード会場、新体操・ボッチャの体操会場を巡り、豊洲市場、オリンピック

選手村を通り、月島方面からセンターに戻りました。約一時間のドライブでしたが、笑顔で景色を眺める利用者様、職員の話真剣に聞く利用者様、バス心地よい揺れについてウトウトする利用者様とそれぞれの楽しみ方でドライブを満喫できました。(療育部 大隈)

ドライブ中のようす

全国重症、心身障害日中活動支援協議会に参加して(オンライン開催)

令和三年十月十四日(木)に全国重症心身障害日中活動支援協議会がオンラインで開催されました。まず、厚生労働省障害福祉専門官より、障害福祉サービス等報酬改定について説明がありました。障害児通所支援において医療的ケア児の基本報酬創設、医療型短期入所の受入体制強化として基本報酬引き上げ等、医療的ケア児者に対する支援の充実が図られているとのことでした。また障害者虐待防止の更なる推進のため、従業者への研修実施や虐待防止委員会の設置が令和四年度より義務化されるなどの話もありました。

は、一九六〇年代に英国で養成が始まった、PLAY(遊び)を用いて病児や家族を支援する専門職です。英国の病院や在宅での事例を交え、子どもにとって遊びは命の源との話がありました。午後は実践報告として、今回の開催担当である静岡県四事業所より、コロナ禍における取組みの発表でした。①例年、公共交通機関を使用し外出していたが徒歩圏に変更、近場になったことで地域との交流の機会となった。②Web交流会を行い、今まで繋がりのなかった県内他施設と交流を持てた。③四十七都道府県を食で旅するとして、ご当地メニューを取り入れた給食を提供した等の報告がありました。

(地域療育支援室 鈴木)

第四十七回 東日本施設協議会に参加して(オンライン開催)

十一月四日「第四十七回日本重症心身障害福祉協会 東日本施設協議会」がリモート開催されました。全六十五施設の参加があり理事長講演と四題の講演発表がありました。児玉理事長はベルデさかいセンターでのコロナ対応を紹介されました。続いて、発表四題は、アドバンス・ケア・プランニングの考え方、感染対策として部屋の配置について、経腸栄養分野の新規コネクター切り替えの課題と対

応策が報告され、最後に虐待防止・権利擁護についての講演でした。いずれの講演も現在重症心身障害児者の領域で重要なことばかりでしたので大変参考になりました。今回は神奈川県での開催が決定していますが、会場での開催ができることを願うばかりです。

(療育部 村田)

ポランテア紹介

手話ダンス スマイルサークルふじさん

令和三年十月二十日(水)、アトラクションポランテアで素敵な手話ダンスを披露してくださいました。スマイルサークルふじさんを紹介いたします。

こんにちは。私たち手話ダンス スマイルサークルふじは活動を始めて約十四年になります。手話ダンスをはじめ、さっかには今から二十年前、埼玉県春日部のカルチャー教室です。カルチャー

教室が解散することになり、そこで知り合った仲間五人で細々とサークル活動を始めました。地域の文化祭への出演をきっかけに新しいメンバーが加わり、そのメンバーのお知り合いの方にこの東部療育センターのアトラクションポランテアを紹介していただきお邪魔するようになってもう十年になります。

私たちの拙い演技にもかかわらず毎年呼んでいただく機会をありがとうございます。今後も活動を続けていく大きな励みになりました。喜んでいただける手話ダンスを心がけます。



スマイルサークルふじの皆さん

東部あれこれ

十月から十二月、秋から初冬にかけてのセンターの動きです。

新型コロナウイルス感染症の「第五波」で、七月十二日から続いていた緊急事態宣言は九月末に解除されました。以降、都内の感染者数は減少し、対策を判断するレベル分類は十二月二十三日現在「レベル1」で、重症者用病床使用率(都基準)は〇・四%まで低下しています。

ご家族の 一 想い



面会が再開し、嬉しそうなお母様と優希様。ご協力いただき、ありがとうございました。

コロナ禍では、感染拡大防止のため、面会等を制限し、ご家族の皆様にもご協力いただきました。その間のご家族のお気持ちを、吉田優希様のお母様に書いていただきました。

何が起きているのか? 対岸の火事にはかかっていなかった事態が私たちにも襲ってきたあの日からの時間。心が氷り思考回路が止まり、世界が闇に包まれた様で恐怖に支配された。

人との接触を避け大切な人にも会えない日々は、心と体を消耗し生きる力さえも奪い去る。見えない物と戦う術もなく、大事な人に会える日々を信じる事で自らを保っていた。

私事ではあるが、世の中の動向や自分の人生について深く考える時間を頂いたと思っている。子育てを、長い時間離れている間の息子の心の成長は計り知れないものがあった。私自身も強くありたいと感じ、新しい人の出会いを経て、今、新しい世界への挑戦をスタートし日々を過ごしている。

療育研究発表会

十二月二十一日(火)に療育部の「療育研究発表会」を開催しました。上智大学看護学科草柳学科長と平塚助教にご指導いただき、昨年十一月より年度を越えての取り組みでした。いずれも重心施設で働く者として興味深い内容でした。院長からも好評をいただき研修生の努力が実った日となりました。次のステップに向けて更なる前進をしていきたいと思っております。

(療育部 高橋)

【十二月】



一日は当センターの開設記念日でした。栄養科からは特別メニュー(写真)が提供され、みんなが十六周年をお祝いしました。

十三日から二十四日までの間、成人通所、乳幼児通所、各病棟のそれぞれでクリスマス会が開催されました。サンタさんからプレゼントをいただき、利用者の皆さんの出し物を楽しみました。

(事務長 松浦)



【編集後記】

あけましておめでとうございます。

昨年も新型コロナウイルスの影響で数々の制限があり、大変な一年でしたが、皆様のご協力により院内感染も大きく乗り越えることができました。ご協力いただきありがとうございます。長期戦となっておりますが、引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。今年一年の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げますとともに、新型コロナウイルス感染症の終息を祈念しています。

開設記念日



☆開設記念日メニュー☆
・散らし寿司・煮しめ
・すまし汁・水ようかん



お食事には、作業療法科作業グループの皆さんが作製した素敵なお料理が添えられていました。

←これまでのわか草をご覧になりたい方はこちらからどうぞ

